

JACC 比較文化会報

本部事務局：〒036-8231 弘前市稔町13-1 弘前学院大学 英米文学
佐藤研究室 Tel.0172-34-5211 内線 216 satoh@hirogaku-u.ac.jp

第26回大会を振り返って

栗原 靖（北東北支部支部長、弘前大学名誉教授）

第26回大会は、平成16年6月12日（土）、弘前文化センターを会場にして開催されました。当日は遠隔の地であるにもかかわらず多数の会員の参加を仰ぐことができました。感謝しています。とりわけ韓国は日本文化学会の金先生、片先生、ニューシーランドはウエリントン大学の狩野先生、有難うございました。

午前のシンポジウムは「多文化交流の問題点」というテーマで4人の先生方に報告をお願いしました。司会は国際比較文化研究所の太田先生でした。小笠原先生、片先生、奥村先生は、文化交流の現場から多文化の共在を目指した具体的な報告をされました。飯島先生は日本文化のアイデンティティの問題として英語帝国主義の中での無意味なカタカナ語の氾濫を問題にされていました。

多文化の共生の問題と文化のアイデンティティの問題は、ひとつの問題として論理化される必要があると思いました。英語帝国主義の背後にあるのはアメリカにおいて完成された科学技術と民主主義です。それは実は古典ギリシアの継承者として、古典ギリシアに対して西欧が形成した西欧のアイデンティティでもあるわけです。だがこれはさしあたり乗り越えがたい普遍性をもっています。

午後は、合計17の研究が五つの分科会に分かれて発表されました。総会では会長が（！）挨拶されました。この学会、先駆的に可能性を先取りして、すでに四半世紀の歴史を持っています。ひとしおの感慨なきにしもあらずでした。

懇親会は会場の近くの翠明荘で、静かな弘前の夜をお楽しみいただきました。

参加された会員みなさま、発表された先生方、当日司会を引き受けて下さった先生方、本部事務局、実行委員会みなさま、お手伝いいただいた弘前学院大学みなさまに改めて御礼申し上げます。

第26回大会総会報告

本部事務局 佐藤 幸正

2004年6月12日（土）弘前文化センターで開催された第26回大会では次の報告や議題が取り上げられ、審議された。

一 報告

1. (1) 『比較文化研究』発行について：60、61、62、63号が発行された。

(2) 主な送付先

国立国会図書館、Harvard-Yenching Library、郵政省郵務局、論説資料保存会など。

2. 第27回大会について

時 2005年6月11日(土) 開催校 福岡女学院大学
シンポジュームのテーマ 「多文化交流から他文化共生へ」

3. 支部および研究部会報告

4. その他

77

二 議題

1. 第28回大会について

開催校： 関東支部主管 シンポジュームのテーマ：未定

2. 『比較文化研究』について

投稿規定に「論文の投稿は本部会員に限る。依頼原稿はこの限りではない」を付け加えることになった。

3. 会計報告について(別紙)

別紙にて報告がなされ承認された。

4. その他

過去五カ年間に渡る会費未納者については、各支部と意見を交換し、処置することになった。

第27回大会案内(実行委員会からのお知らせ)

第27回日本比較文化学会大会は下記の通り、2005年6月11日(土)、福岡女学院大学でシンポジューム、研究発表等を開催する運びとなりました。シンポジュームに、研究発表に今回もまた奮ってご参加くださいますようお願い致します。

大会開催日 2005年6月11日(土)

大会会場 福岡女学院大学

問合先 長崎ウェスレヤン大学 有門 恵

〒854-0081 長崎県諫早市栄田町1057

電話：0957-26-1234(代表) ファックス：0957-26-2063(代表)

研究発表希望者へ

1. レジューメをワープロなどで、A4版横書き1枚にまとめて下さい。その際、左右の余白を2.5センチほど残して下さい。

2. 2005年2月28日必着で上記有門恵宛に郵便書留で送って下さい。

5

シンポジューム講師の推薦

次年度第27回大会のシンポジュームのテーマは「多文化交流から多文化共生へ」に決定しております。各支部は12月31日までに講師を推薦して下さい。

推薦された講師は上記研究発表1および2の要領で、有門恵宛にレジューメをお送り下さい。なお、シンポジュームの司会者は九州支部で引き受けることになります。シンポジュームの司会者は選ばれた講師の方と連絡を取り合って大会に備えて下さい。

本部事務局だより

1. 入会希望者へ

本学会に入会を希望する方は、本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局に備えてあります。

2. 論文掲載希望者へ

学会誌『比較文化研究』は年に4回発行しております。掲載をご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。ただしレフリー制を採用し、掲載費用および別刷りは著者負担となります。本冊10部までは無料です。

★ 論文投稿者は本部会員に限りますので、ご注意下さい。

(3月末日締切)

長崎ウェスレヤン大学内 日本比較文化学会九州支部
〒854-0081 諫早市栄田町1057 電話 0957-26-1234

航空

(6月末日締切)

東京都立工業高等専門学校栗原優研究室内 日本比較文化学会関東支部
〒116-8523 荒川区南千住 8-52-1 電話 03-3801-0146(内線 510)

(9月末日締切)

東北学院大学教養学部菊地弘研究室 日本比較文化学会南東北支部
〒981-3105 仙台市泉区天神沢2-1-1 電話 022-773-3337

(12月締切)

同志社大学言語文化教育研究センター山内信幸研究室内 日本比較文化学会関西支部
〒602-0033 京都府京田辺市多々羅都谷1-3 電話 0774-65-7070

3. 『比較文化会報』原稿募集

近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介などを求めています。投稿希望の方は次の要領でご応募下さい。

- (1) 近況報告(130字以内)
- (2) 新刊書、編註書の紹介(130字以内)
- (3) エッセイ投稿(500字以内)
- (4) 支部報告、研究部会報告(1000字以内)

投稿締切日 毎年6月30日(第1回締切日)

および毎年12月25日(第2回締切日)

投稿先 弘前学院大学文学部佐藤研究室 日本比較文化学会

〒036-8577 弘前市稔町13-1 電話 0172-34-5211(代)

E-mail: satoh@hirogaku-u.ac.jp

受贈図書

深澤幸雄著『ワーズワスと禅の思想』京都修学社 2003 年。

『日本教科教育学会誌』第 26 巻第 3 号 (2003 年 12 月)、第 4 号 (2004 年 3 月)。

International Journal of Curriculum Development and Practice, 6, No.1 (March 2004).

『日本文化学報』第十九輯 2003 年 11 月。同第二十輯 2004 年 11 月。

関東支部報告

長らく休眠状態でした関東支部ですが、下記のように今年度の支部例会を開催します。小さな集まりですが、関東支部の会員の皆様は勿論、他の支部の方もふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日 時 2004 年 10 月 22 日 (金) 午後 6 時半～8 時半
会 場 高崎市北公民館第一会議室 高崎市本町 179-1 電話：027-326-0417
駐車場がありません。車の方は中央公民館第 2 駐車場にお入れください。
バスの方は「ぐるりん (高崎経済大学線)」で「総合文化センター前」下車。徒歩 3 分。

プログラム 研究発表・支部例会。

出席申込 379-0124 安中市鷲宮 3413-3 国際比較文化研究所内 日本比較文化学会関東支部事務局までファックス：027-382-6393 もしくはメール：
mtharunac@xp.wind.jp でご連絡ください。

編集後記

今年は世界規模で異常気象になっているようです。オーストラリアでは干ばつのため食べ物なくなったカンガルーが凶暴になり、人間を襲ったとか、ニュージーランドでは記録的な寒さに震えているとか。これだけ記録破りの天候が続けば、そこに住む人たちの暮らし方にも変化が出てくることでしょうね。

気候風土が固有の文化を生み育てた反面、私たちの暮らし方が地球温暖化の原因を作っていることを考えなければと思います。いま地球規模の視点をもちつつ、自分の足下を見つけないおすべき時期にきていると思いつつ、この夏は、冬のオーストラリアから雨期のフィリピンへと旅してきます。皆様もくれぐれもご自愛ください。(中澤)

中澤編集委員から今号の会報原稿が届いてから 2 ヶ月が過ぎてしまいました。その間、九州から届いていた『比較文化研究』64 号と会報 28 号は私の手元で眠ったままでした。毎日、発送の準備をしなくてはと思いつつ事務所に来るのですが、思うように行かずついに 9 月になり、10 月になってしまいました。お詫び申し上げます。

気がつくとき我が家の玄関のタイルにウラギンシジミという名の蝶が来はじめました。秋になると姿を見せる蝶で、羽を閉じると銀色。開くと茶色の地に橙色の斑点があります。この蝶は冬になると樫の木の葉の裏に止まり、一冬、身じろぎもせずにごすのです。無事冬を越して春を迎える蝶は半分くらいだとか。今年はまだたった一匹しか見かけませんが、その一匹が無事に冬を越してくれるでしょうか。冬眠に入るまでまだ 2 ヶ月ほどあるのですが、今から心配しています。

我が家にこもって過ごした数年前の冬、ひたすらウラギンシジミと励ましあって過ごした事を思い出します。(太田)